

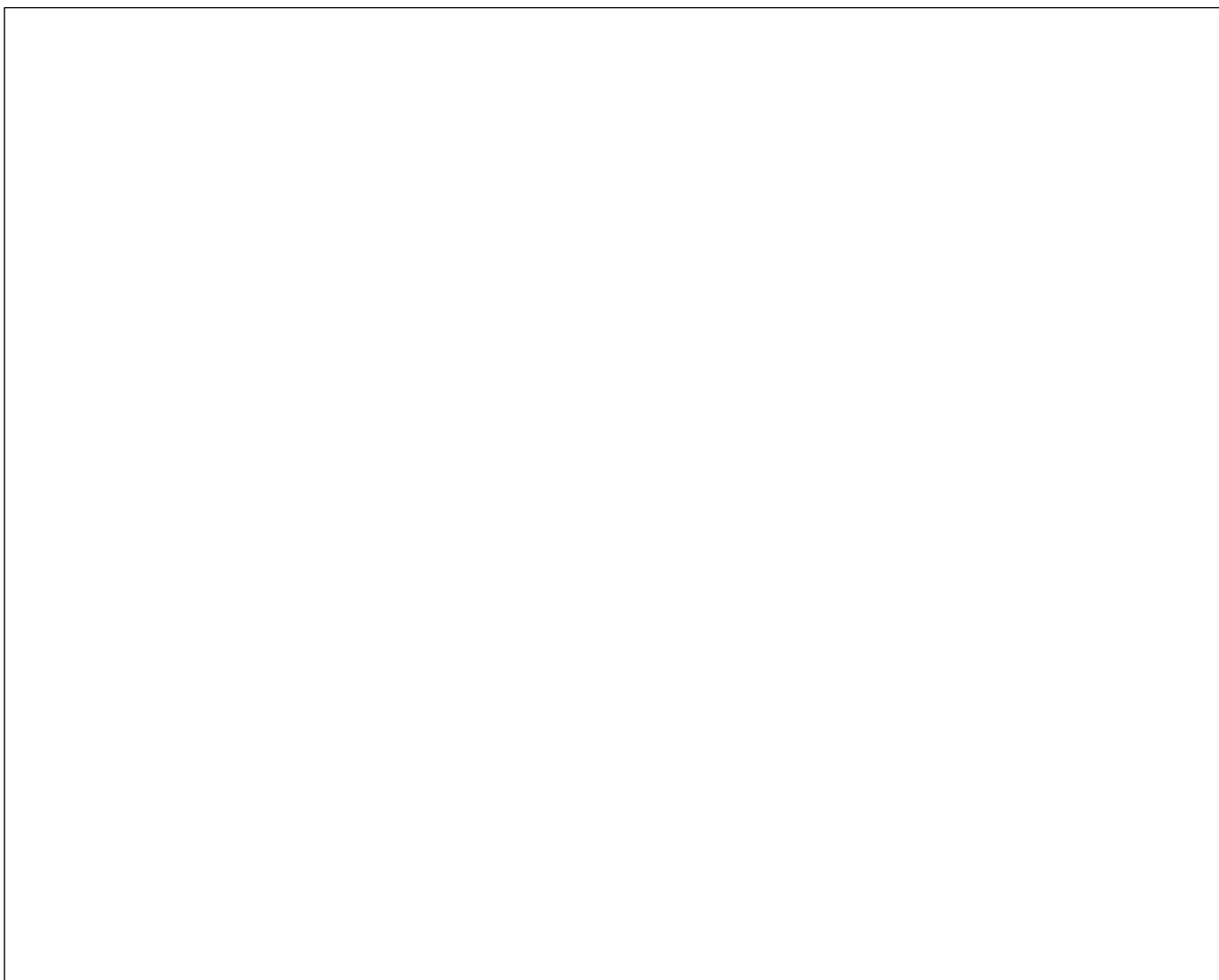
Panasonic[®]

取扱説明書

機能拡張ソフトウェア

(ネットワークカメラ タイプ7用)

品番 WV-SAE200W



もくじ

はじめに	はじめに	3
	商品概要	3
	特長	3
	取扱説明書について	4
	必要なPCの環境	4
	商標および登録商標について	4
	オープンソースソフトウェアについて	4
	著作権について	4
	免責について	5
	個人情報の保護について	5
	ご使用の前にお読みください	6

準備	運用までの流れ	7
	本製品をインストールする	7
	解除キー番号を取得、登録する	8

設定	必要な設定を行う	10
	設定手順について	10
	1. 設定画面を開く	11
	2. エリア設定	12
	3. 詳細設定（必要に応じて）	15
	4. スケジュール設定	18
	5. アラーム設定	19

その他	運用	20
------------	-----------------	-----------

はじめに

商品概要

機能拡張ソフトウェアWV-SAE200W（以下、本製品）は、ネットワークカメラ（別売り、以下カメラ）をより便利にお使いいただくためのソフトウェアです。本製品をカメラにインストールし、解除キーを登録することで、i-VMD機能（アラーム機能：侵入検知／滞留検知／方向検知／ラインクロス検知）を使用することができます。

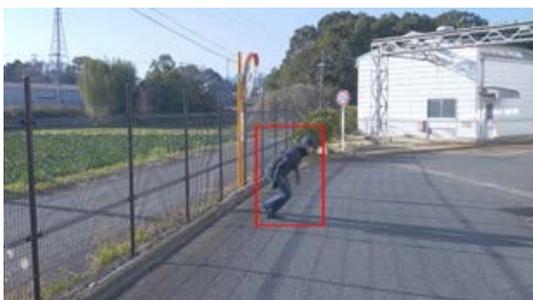
重要

- 本製品は、カメラ1台ごとに必要です。
- 本製品の対応機種、ソフトウェアバージョンなどの情報は、以下のURLを参照してください。
<https://sol.panasonic.biz/security/support/info.html>

特長

- i-VMDを使用することで、以下の4つのモードで動体を検知してアラームなどを発生させることができます。
 - 侵入検知：あらかじめ設定したエリアに動体が侵入したとき
 - 滞留検知：あらかじめ設定したエリア内で、動体が一定時間以上滞留したとき
 - 方向検知：あらかじめ設定したエリア内で、動体が指定した方向に移動したとき
 - ラインクロス：動体があらかじめ設定したラインを指定方向に超えたとき
- 以下に各検知の例を示します。

侵入検知



設定したエリアに動体が侵入したことを検知してアラームを発生。

方向検知



設定したエリア内で動体が指定した方向へ移動していることを検知してアラームを発生。

滞留検知



設定したエリア内に動体が滞留したことを検知してアラームを発生。

ラインクロス



設定したラインを動体が指定方向へ超えたことを検知してアラームを発生。

取扱説明書について

本書は、本製品をカメラ（ネットワークカメラ タイプ7）にインストールする方法と運用を開始する前に必要な設定、および運用時の操作方法について説明しています。本製品はカメラにインストールしてご使用いただくため、ご使用の際には、お使いのカメラの取扱説明書もあわせてお読みください。

お使いのカメラの機種によっては、本書で使用している画面例と異なる場合があります。

本書では、パーソナルコンピューターをパソコンまたはPCと表記しています。

ネットワークカメラの種類（タイプ7）の対応機種は、以下のURLを参照してください。

- DG/WVシリーズ

<https://sol.panasonic.biz/security/support/info.html>

必要なPCの環境

設定などで使用するPC環境、要件については、お使いのカメラの取扱説明書をお読みください。

商標および登録商標について

- Internet ExplorerおよびActiveXは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Microsoft Corporationのガイドラインに従って画面写真を使用しています。

著作権について

本製品に含まれるソフトウェアの譲渡、コピー、逆アセンブル、逆コンパイル、リバースエンジニアリングは禁じられています。また、本製品に含まれるすべてのソフトウェアの輸出法令に違反した輸出行為は禁じられています。

免責について

- この商品は、特定のエリアを対象に監視を行うための映像を得ることを目的に作られたものです。この商品単独で犯罪などを防止するものではありません。
- 弊社は如何なる場合も以下に関して一切の責任を負わないものとします。
 - ①本商品に関連して直接または間接に発生した、偶発的、特殊、または結果的損害・被害
 - ②本商品の故障・不具合を含む何らかの理由または原因により、画像が表示・記録などできないことおよび記録した情報が消失したことで被る不便・損害・被害
 - ③第三者の機器などと組み合わせたシステムによる不具合、あるいはその結果被る不便・損害・被害
 - ④お客様による監視映像・記録が何らかの理由（ユーザー認証OFFでの使用を含む）により公となり、使用され、その結果生じた、被写体となった個人・団体などによるプライバシー侵害などを理由とする賠償請求、クレームなど
 - ⑤登録した情報内容が何らかの原因（ユーザー名、パスワードなどの認証情報を忘れたことにより本商品を初期化する場合を含む）により、消失してしまうこと

個人情報の保護について

本機を使用したシステムで撮影された本人が判別できる情報は、「個人情報の保護に関する法律」で定められた「個人情報」に該当します※。法律に従って、映像情報を適正にお取り扱いください。

※個人情報保護委員会の「個人情報の保護に関する法律についてのガイドライン（通則編）」における【個人情報に該当する事例】を参照してください。

ご使用前にお読みください

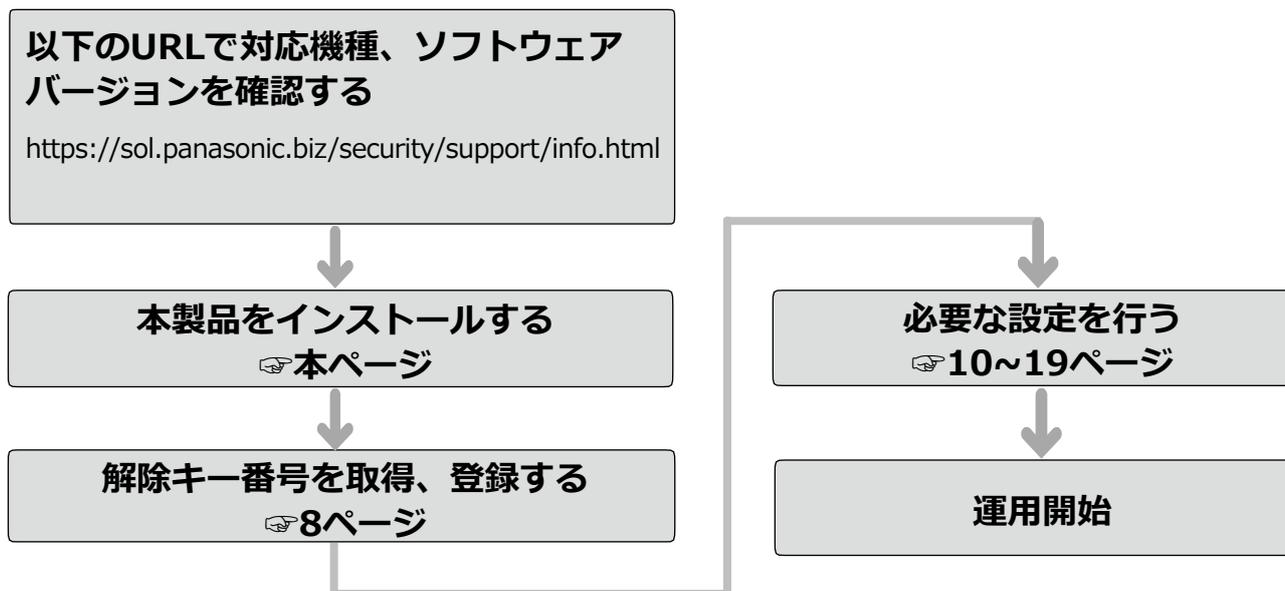
以下のような場合、動きを検出しにくい、または失報や誤発報の原因になる場合があります。

- 背景と動いている被写体に輝度（明るさ）の差がない。
- 夜間など、映像の輝度が低い。
- 被写体の動きが速すぎる、または遅すぎる。
- 被写体が小さすぎる、または大きすぎる。
- 屋外、窓際など光線状態が変わりやすい。
- 日光・車のヘッドライトなどの外光が入る。
- 蛍光灯がちらつく。
- カメラのドームに水滴や汚れが付いている。
- 被写体がカメラに向かってまっすぐ移動している。
- 移動物体が多すぎる。
- カメラが揺れている。
- 天候が著しく悪い。
- 複数の人物が交差する。
- 検知エリアに影が入り込む。

その他の注意事項を以下に記載します。

- 画面内に、木々の揺れ・車道（自動車の通る）・水面（反射光）などの誤検知要因が存在する場合、マスクエリアを設定（☞12ページ）することで、誤検知を減らすことができます。
- i-VMDの設定を行う際は、カメラの設置状況・予想される被写体の動きにあったエリア設定（☞12ページ）を行ったあと、昼間と夜間にその動作を確認してください。
- 電源投入後、カメラの設定変更後、およびカメラの画角が変わった場合、約1分間は誤検知する場合があります。
- 画面内に検知対象が存在している間は、指定時間おきにアラーム発報を繰り返します。そのため、メールや独自アラームも指定時間おきに通知されます（カメラ設定画面の [アラーム] タブの [アラーム無検知時間] を参照してください）。
- 下記のカメラの場合、i-VMDをインストールすると、配信フレームレートが最高30 fpsから15 fps（25 fpsモード時は、最高25 fpsが12.5 fps）に制限されます。
品番: WV-S1572LNJ, WV-S2572LNJ（2020年11月現在）
- i-VMDをインストールすると、JPEG(1)の解像度は、ストリーム(1)に設定されている解像度と同じ解像度に固定されます。
- i-VMDの設定、あるいはその結果で被る不便、損害、被害に関して弊社は一切の責任を負わないものとします。
- i-VMDは、盗難、火災などを防止するための機能ではありません。万一発生した事故または損害に関して弊社は一切の責任を負わないものとします。

運用までの流れ



本製品をインストールする

以下の手順で、本製品をダウンロードし、お使いのカメラにインストールします。

- (1) 下記の URL にアクセスし、「機能拡張ソフトウェア (WV-SAE200)」からタイプ7用をダウンロードし、パソコンに保存します。

<https://sol.panasonic.biz/security/support/info.html>

重要

- 保存先のディレクトリ名に、スペース、全角文字は使用しないでください。

- (2) カメラの「設定」メニュー > 「機能拡張ソフトウェア」ページ > 「ソフトウェア管理」タブを選択します。



重要

- カメラの「残ROM容量」「残RAM容量」を確認してください。容量が不足している場合は、インストール済みの別の機能拡張ソフトウェアをアンインストールしてください。アンインストール方法についてはカメラの取扱説明書操作・設定編をお読みください。

- (3) [参照...] ボタンをクリックしてダウンロードした「機能拡張ソフトウェア (WV-SAE200)」を指定します。
- (4) 「新しい拡張ソフトウェアをインストールする。」が選択されていることを確認し、[実行] ボタンをクリックします。
ソフトウェアのインストールが開始されます。
インストールが完了すると、「ソフトウェア管理」画面に「i-VMD」が追加されます。

重要

- インストール中は、カメラの電源を切らないでください。
- インストール中は、インストールが終了するまで一切の操作を行わないでください。

解除キー番号を取得、登録する

本製品を使用するには、本製品の解除キー番号を取得し、お使いのカメラに登録する必要があります。

下記の手順に従って、解除キー番号を取得してください。

<キー管理システムの登録 ID をお持ちでない方>

* キー管理システムのサイトにアクセスして、登録 ID を取得してください。

STEP1 からお読みください。

<キー管理システムの登録 ID をすでにお持ちの方>

* キー管理システムのサイトにアクセスし、取得済みの登録 ID を使って「解除キー番号発行」を行ってください。

STEP2 からお読みください。

STEP1 「ご販売店様登録」をします。

(1) 下記のどちらかの URL にアクセスし、「ご販売店様登録」を選択します。

● パソコン・スマートフォン用 URL
<https://kms.business.panasonic.net/ipkms/m-jp/>

● パソコン専用 URL
<https://kms.business.panasonic.net/ipkms/pc/jp.htm>
※ パソコン専用 URL からアクセスしたときは、「新規登録を行う場合はこちらをクリック」をクリックします。

(2) 画面の指示に従って、ご自身の情報を入力します。

(3) 登録 ID とパスワードが発行されます。

重要

- 登録 ID とパスワードは、大切に保管してください。次回以降、新たに登録 ID を取得する必要はありません。発行された登録 ID を使用してください。
- パスワードは、定期的に変更してください。パスワードの変更は、パソコン専用 URL にログインし、「パスワード変更」から行ってください。

STEP2 解除キー番号を取得します。

(1) カメラの機器 ID 番号、起動 ID 番号および暗号 ID 番号を確認します。

- 機器 ID 番号は、カメラの「設定」メニュー > 「機能拡張ソフトウェア」ページ > 「ソフトウェアの管理」タブの「機器 ID 番号」を参照してください。



- 起動 ID 番号および暗号 ID 番号は、本製品の起動情報案内カードに記載されています。

メモ

- 機器 ID 番号は、カメラの外装箱にも記載されています。

解除キー番号を取得、登録する（つづき）

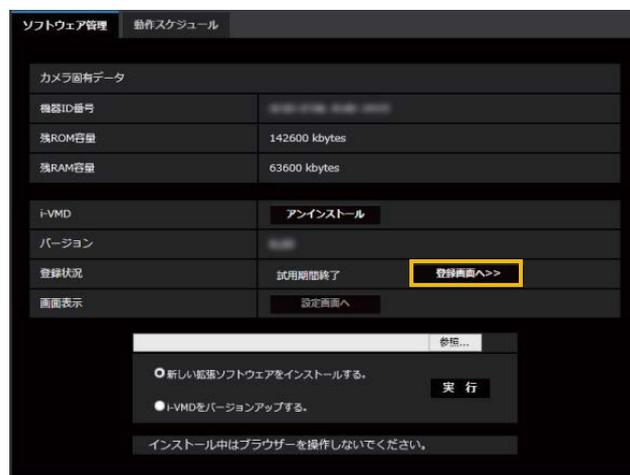
- (2) **STEP1** (1) のどちらかの URL にアクセスします。
- パソコン・スマートフォン用 URL にアクセスした場合は、[解除キー番号発行] ボタンを選択します。「解除キー番号発行ログイン」画面に登録済みの登録IDとパスワードを入力してログインします。
 - パソコン専用 URL からアクセスした場合は、直接「ログイン」画面が表示されます。登録済みの登録IDとパスワードを入力してログインします。
- (3) 画面の指示に従って、機器 ID 番号、起動 ID 番号および暗号 ID 番号を入力します。
- (4) 入力後、解除キー番号が発行されます。起動情報案内カードに記載し、大切に保管してください。

重要

- 機器ID番号とそのカメラに使用する起動ID番号、暗号ID番号の組み合わせを間違えないようにご注意ください（一度解除キー番号を発行した起動ID番号は、別の機器ID番号との組み合わせで解除キー番号を発行することはできません）。
- 別のカメラについて解除キー番号を発行する場合は、**STEP2**の (3) (4) を行ってください。
- 1台のカメラに複数の解除キー番号を登録する場合は、**STEP2**の (3) で複数の起動ID番号、暗号ID番号を入力することで、同時に解除キー番号を発行できます。

STEP3 解除キー番号を登録します。

- (1) カメラの「設定」メニュー > 「機能拡張ソフトウェア」ページ > 「ソフトウェア管理」タブを選択します。



- (2) [登録画面へ>>] ボタンをクリックして、「アプリケーション登録」画面を表示します。



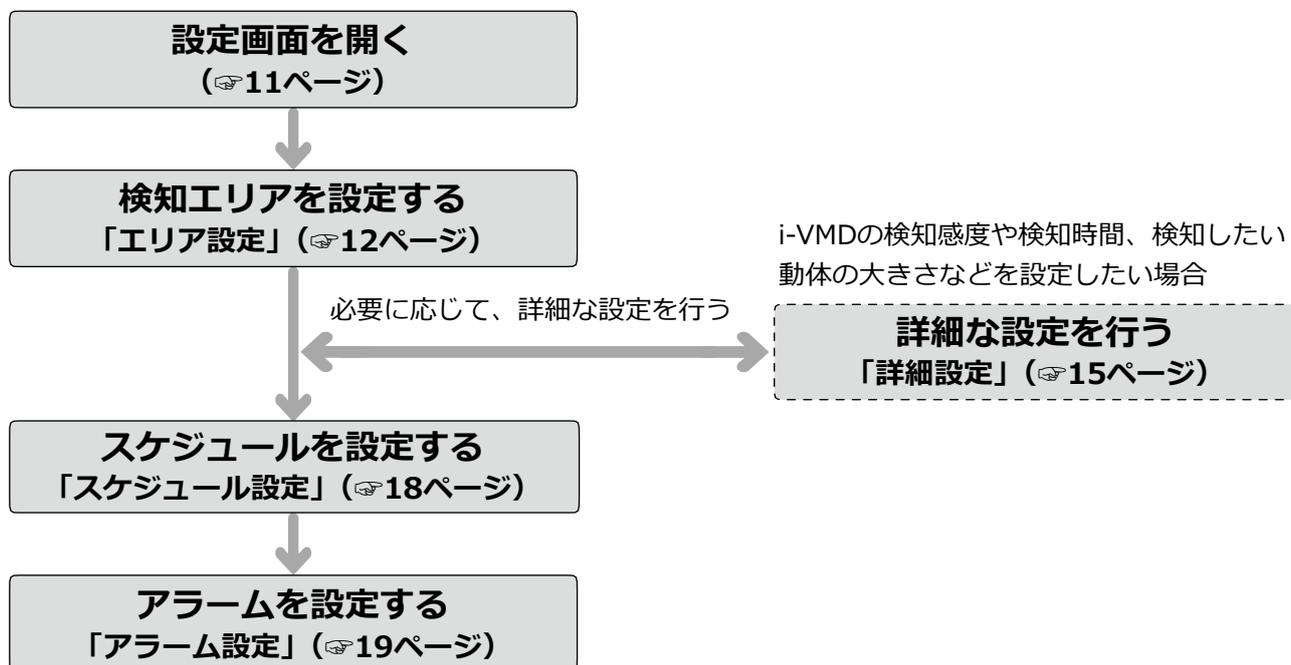
- (3) 「解除キー番号」欄に、**STEP2** で取得した解除キー番号をハイフン (-) 無しで入力し、[登録] ボタンをクリックします。解除キーの登録後、「機能拡張ソフトウェア (WV-SAE200)」が有効になります。

メモ

- 解除キー番号は、アクセスレベルが「1.管理者」のユーザーだけが登録できます。アクセスレベルの設定方法については、カメラの取扱説明書をお読みください。
- 解除キー番号を登録し、本製品が動作開始するまでの間、最大10秒間ほど、設定画面が更新されない状態となることがあります。また、解除キー番号登録後、設定画面が更新されるまでブラウザ操作しないでお待ちください。

必要な設定を行う

設定手順について



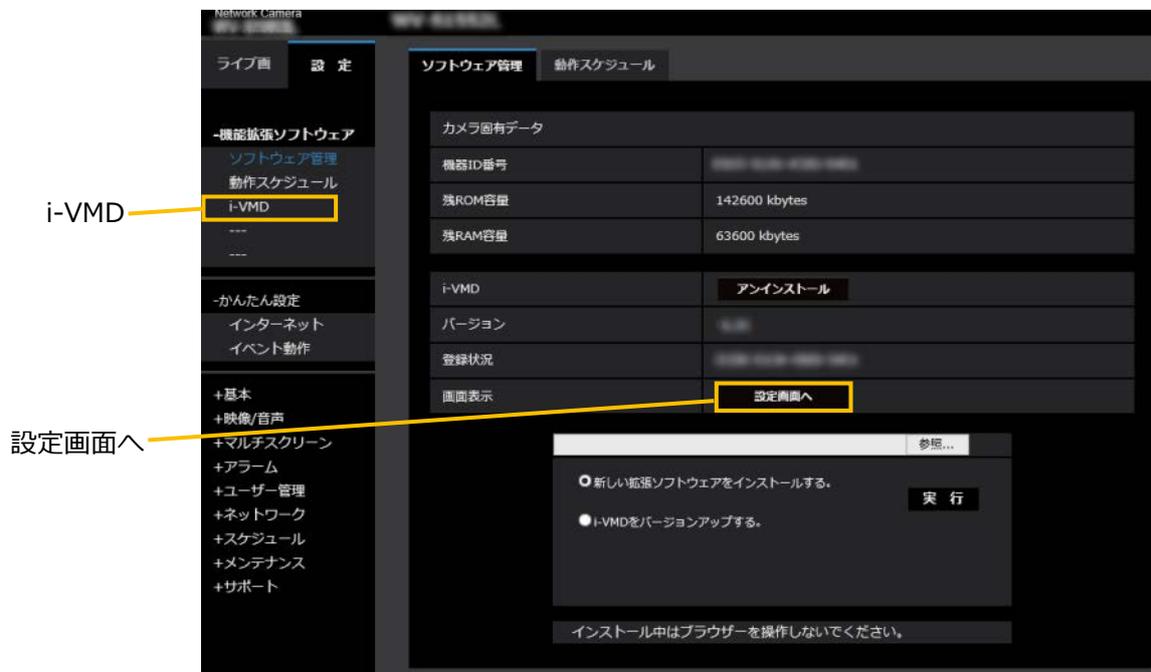
重要

- 設定は、Internet Explorer 11 32ビット版を使用して行ってください。また、あらかじめ表示用プラグインソフトウェア「Network Camera View 4S (ActiveX)」をPCにインストールしておく必要があります。詳しくは、カメラの取扱説明書 操作・設定編を参照してください。

必要な設定を行う（つづき）

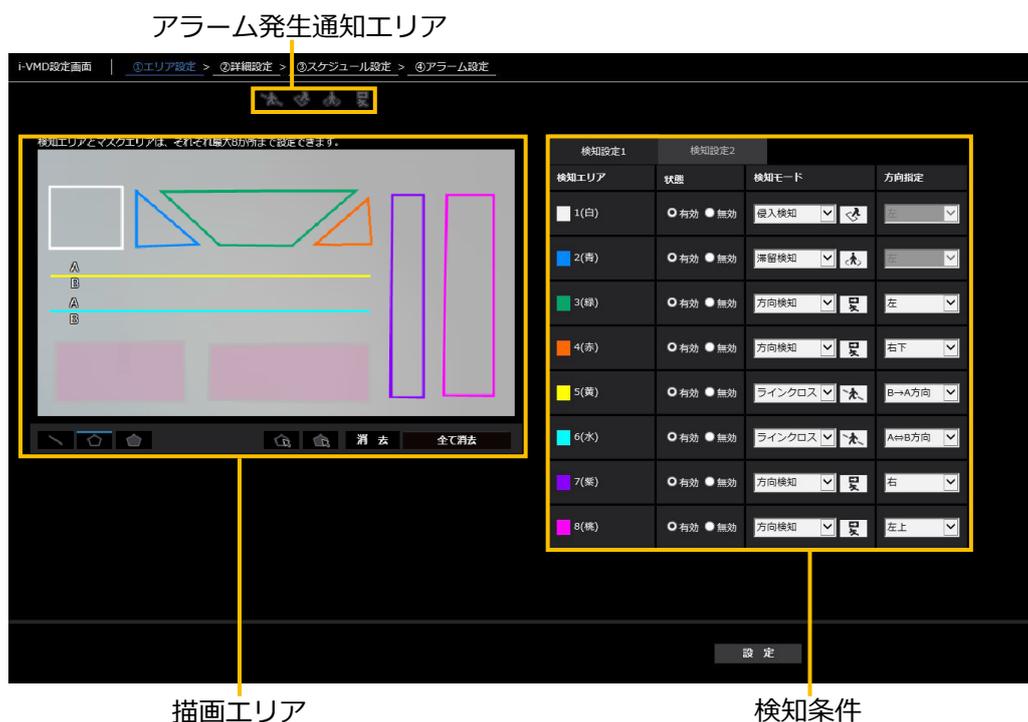
1. 設定画面を開く

本製品をインストール・解除キー番号を登録すると、カメラの、カメラの「設定」メニュー > 「機能拡張ソフトウェア」ページ > 「ソフトウェア管理」タブに「i-VMD」メニューが追加されます。



「i-VMD」メニューをクリック、または「設定画面へ」をクリックすると、「i-VMD設定画面」が開きます。「i-VMD設定画面」には「①エリア設定」、「②詳細設定」、「③スケジュール設定」、「④アラーム設定」の4つの設定画面があります。「i-VMD設定画面」を開いた直後は、「①エリア設定画面」が選択されています。

設定画面（「①エリア設定」が選択されている状態）



必要な設定を行う (つづき)

2. エリア設定

i-VMDにより動体を検知するエリアと検知条件を設定します。

検知モードとして侵入検知、滞留検知、方向検知、ラインクロスのいずれかを選択します。各設定に検知エリアを8か所まで、マスクエリアを8か所まで、それぞれ設定することができます。エリアと検知条件の組み合わせを2種類まで設定でき、検知設定1および検知設定2として保存することができます。

■ アラーム発生通知エリア

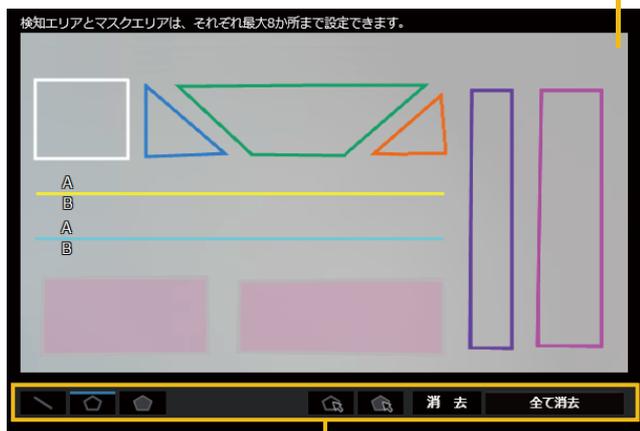


i-VMDにより、動体を検知すると、アラームアイコンおよび4つの検知モードに対応したアイコンが点灯します。アラームアイコンをクリックすると、アラーム状態が解除され、すべてのアイコンが消灯します。

-  : アラームアイコン
-  : ラインクロス (CROSS LINE)
-  : 侵入検知 (INTRUDER)
-  : 滞留検知 (LOITERING)
-  : 方向検知 (DIRECTION)

■ 描画エリア (検知エリアを設定する)

カメラ映像画面



描画種別

カメラ映像画面

検知エリアまたは検知ラインを描画する画面です。描画する際は、「描画種別」から描画したい「検知エリア (多角形)」または「ラインクロス」アイコンを選択し、「カメラ映像画面」にドラッグして描画します。描画により設定した検知エリア内で、動体を判別するとアラームが発生します。また、設定した検知ラインを動体が横切るとアラームが発生します。

描画種別

アイコンをクリックして、描画形式を選択します。

-  ラインクロス: ラインクロス用の検知ラインを描画します。
-  検知エリア (多角形): 検知エリアを多角形 (最大16角形) で描画します。
-  マスクエリア (多角形): マスクエリアを多角形 (最大16角形) で描画します。
-  検知エリア (選択): 描画した検知エリア (検知ライン) を選択します。
-  マスクエリア (選択): 描画したマスクエリアを選択します。
-  消去: 選択した検知エリア (検知ライン)、マスクエリアを消去します。
-  全て消去: 描画したすべての検知エリア (検知ライン)、マスクエリアを全て消去します。

メモ

- 検知エリア (多角形)、マスクエリア (多角形) を描画したとき、最後に始点を選択することでエリア設定を完了します。
- 検知エリア (選択)、マスクエリア (選択) で選択した検知エリア、検知ライン、マスクエリアは、枠の角やラインの端点をドラッグすることで大きさや長さ、形を変更することができます。また、枠の内側やラインをドラッグすることで移動することができます。
- 検知エリアや検知ラインを消去する場合、複数の検知エリアや検知ラインが重なっているときは、重なっているエリア内でマウスを左クリックすると選択される枠が順番に切り換わります。
- 検知枠 (20ページ) 下辺の中央を検知枠の位置としています。この検知枠の位置が検知エリアに入るように検知エリアを設定してください。
- 複数の検知エリア、検知ライン、マスクエリアを同時に選択することはできません。

必要な設定を行う（つづき）

■ 検知条件設定

検知設定1	検知設定2		
検知エリア	状態	検知モード	方向指定
1(白)	<input type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効	侵入検知	左
2(青)	<input type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効	--未設定--	左
3(緑)	<input type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効	未設定	左
4(赤)	<input type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効	未設定	右下
5(黄)	<input type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効	未設定	左
6(水)	<input type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効	未設定	左
7(紫)	<input type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効	未設定	右
8(桃)	<input type="radio"/> 有効 <input type="radio"/> 無効	未設定	左上

検知設定 1、検知設定 2

「検知設定 1」タブ、「検知設定 2」タブを選択して、1つあるいは2つの検知条件を設定します。
2つの条件は、スケジュール設定（☞18ページ）により、同時または別々に実行できます。

メモ

- スケジュールの初期設定として、検知設定 1 と検知設定 2 は常に動作状態になっています。

検知エリア

最大 8 か所の検知エリアや検知ラインの設定を描画線の色で区別しています。
描画線の色は、「1（白）」から順番に設定されます。

状態

検知エリアの状態を設定します。
有効：検知エリア設定を有効にします。
無効：検知エリア設定を無効にします。
初期設定：有効

検知モード

設定した検知エリアや検知ラインに対して、検知するモードを選択します。

- 侵入検知：検知エリアに動体が侵入したことを検知します。
- 滞留検知：検知エリア内で一定時間、動体が滞留したことを検知します。
- 方向検知：検知エリア内で、動体が指定した方向に移動したことを検知します。
- ラインクロス：動体が検知ラインを指定方向に超えたことを検知します。

初期設定：侵入検知

方向指定

検知モードが、「方向検知」または「ラインクロス」の場合、検知する方向を設定します。

「方向検知」の場合、次の8方向から選択します。

- 上：上方向に移動したときに検知します。
- 右上：右上方向に移動したときに検知します。
- 右：右方向に移動したときに検知します。
- 右下：右下方向に移動したときに検知します。
- 下：下方向に移動したときに検知します。
- 左下：左下方向に移動したときに検知します。
- 左：左方向に移動したときに検知します。
- 左上：左上方向に移動したときに検知します。

初期設定：左

「ラインクロス」の場合、次の3方向から選択します。

- A→B方向：AからB方向に移動したときに検知します。
- B→A方向：BからA方向に移動したときに検知します。
- A⇔B方向：AからB方向、またはBからA方向に移動したときに検知します。

初期設定：A→B方向

【設定】ボタン

クリックすると、現在表示中のエリア設定タブの内容を保存します。

必要な設定を行う（つづき）

エリア設定手順

- (1) 「①エリア設定」画面が選択されていることを確認します。
- (2) 「検知設定1」タブが選択されていることを確認します。
- (3) 描画エリアに、検知したいエリア（以下、検知エリア）を描画します。
検知エリア内に検知させたくない場所（以下、マスクエリア）を描画します。
検知エリア、マスクエリアはそれぞれ8か所設定できます。
- (4) 各検知エリアに対して、それぞれ侵入検知/滞留検知/方向検知/ラインクロスの4つの検知モードを設定します。
- (5) 検知モードが「方向検知」または「ラインクロス」の場合は、「方向指定」を設定します。
- (6) [設定] ボタンをクリックして、「検知設定1」の検知条件を保存します。
- (7) 「検知設定2」タブを選択して、(3) ～ (6) の手順で、「検知設定2」の検知条件を保存します。

必要な設定を行う（つづき）

3. 詳細設定（必要に応じて）

i-VMDの検知感度や検知時間、検知したい動体の大きさなどを設定します。
画面上部の【②詳細設定】をクリックして、「詳細設定」画面を開きます。

■ 詳細設定



画質設定

【一括設定】

【実行】 ボタンをクリックすると、画質を下記内容で一括設定します。認識性が期待を下回る場合にお試しください。

スーパーダイナミック	: Off
光量調整速度	: 8
ホワイトバランス調整速度	: 8
デジタル・ノイズ・リダクション	: 128
インテリジェントオート	: Off
コントラスト自動調整	: Off

重要

- 【画質調整】 - 【光量制御モード】 - 【最長露光時間】 の設定を「最大 1/30 s」より大きな値を選択した場合、認識性が悪くなる場合があります。

感度設定

i-VMDの感度設定を行います。すべての検知条件に共通の設定です。

【動体検知感度】

動体検知感度を設定します。
値が大きいほど検知しやすくなりますが、誤った検知をしやすくなります。
1（低）～ 7（高）

時間設定

検知してからアラームを発生させるまでの時間を設定します。

【侵入検知時間】

侵入を検知してからアラームを発生させるまでの時間を設定します。

0.2 s、0.4 s、1 s、2 s、3 s、4 s、5 s、10 s

初期設定：1 s

【滞留検知時間】

滞留を検知してからアラームを発生させるまでの時間を設定します。

10 s、20 s、30 s、1 min、2 min

初期設定：10 s

【方向検知時間】

指定方向に動体が動き続けてアラームを発生させるまでの時間を設定します。

1 s、2 s、3 s、4 s、5 s、10 s

初期設定：1 s

メモ

- 動体の動きなどにより、アラームが発生するまでの時間が、設定より長くなる場合があります。

必要な設定を行う（つづき）

奥行き

必要に応じて奥行きを設定してください。誤報を抑制することができます。奥行き設定は検知設定1、検知設定2の両方に共通の設定です。

[設定へ>>] をクリックすると、「奥行き設定」画面が表示されます。

■奥行き設定

奥行き設定方法

奥行きの設定方法を選択します。

有効：手動で奥行きをカメラに設定します。

無効：奥行きを設定しません。

初期設定：無効

「奥行き設定」が「有効」の場合

奥行き設定	<input checked="" type="checkbox"/>	有効
マーカー1	<input type="checkbox"/>	被写体サイズ 160 cm(100-200cm) *160cm = 63inch 消去
マーカー2	<input checked="" type="checkbox"/>	被写体サイズ 160 cm(100-200cm) *160cm = 63inch 消去
大きさ設定		
最大サイズ	<input checked="" type="checkbox"/>	300 %
最小サイズ		50 %

■設定手順

描画エリアの2か所に、マーカー1、マーカー2を描画します。

次に、マーカー1、マーカー2の各「被写体サイズ」を入力します。

[消去] ボタンをクリックすると、描画したマーカーが消去されます。



奥行き設定 設定例

メモ

- 「被写体サイズ」(身長) は100 - 200 cmの範囲で入力してください。また、実際の身長に相当する位置に直線でマーカー引いてください。
- マーカーを引く位置は、描画エリア内の手前と奥の離れた2か所に描画してください。2つのマーカーの位置が近いと、奥行きが正しく設定されないことがあります。

「奥行き設定」が「無効」の場合

奥行き設定	<input type="checkbox"/>	無効
大きさ設定		
最大サイズ	<input checked="" type="checkbox"/>	300 %
最小サイズ		50 %

奥行きの設定項目はありません。

メモ

- 「有効」にすることで動体の検知ができないことが多いときは、「無効」を選択することで、検知できることがあります。

大きさ設定

最大サイズ～最小サイズの範囲で検出した動体だけをアラーム発生の対象とします。

必要な設定を行う（つづき）

最大サイズ

検知する動体の最大サイズを設定します。「奥行き設定」で設定した被写体に対する人の大きさを設定します。

100 %、150 %、200 %、250 %、300 %、
制限なし

初期設定：300 %

最小サイズ

検知する動体の最小サイズを設定します。「奥行き設定」で設定した被写体に対する人の大きさを設定します。

10 %、20 %、30 %、40 %、50 %、60 %、
70 %、80 %、90 %

初期設定：50 %

i-VMD情報付加

映像データにi-VMD情報（検知枠）を付加するかどうか、ウェブブラウザのライブ映像内に検知枠や軌跡を表示するかどうかを設定します。

「On（ライブ画表示あり）」に設定した場合、画面内で動体を検出すると青色の枠を表示します。検出した動体が検知エリアに侵入してアラームが発生すると、枠の色が赤色に変わります。また、検出した動体の軌跡を緑色の線で表示します。直近の約3秒間の軌跡を表示します。

i-VMD情報付加の設定は、アラーム動作に影響しません。

Off : i-VMD情報を付加しません。また、検知枠や軌跡も表示しません。

On（ライブ画表示なし）: i-VMD情報を付加しますが、検知枠や軌跡は表示しません。

On（ライブ画表示あり）: i-VMD情報を付加し、また検知枠や軌跡も表示します。

初期設定：On（ライブ画表示あり）

【設定】

クリックすると、現在表示中の詳細設定タブの内容を保存します。

【設定データ初期化】

クリックすると、i-VMDに関する設定を全て初期化します。

必要な設定を行う（つづき）

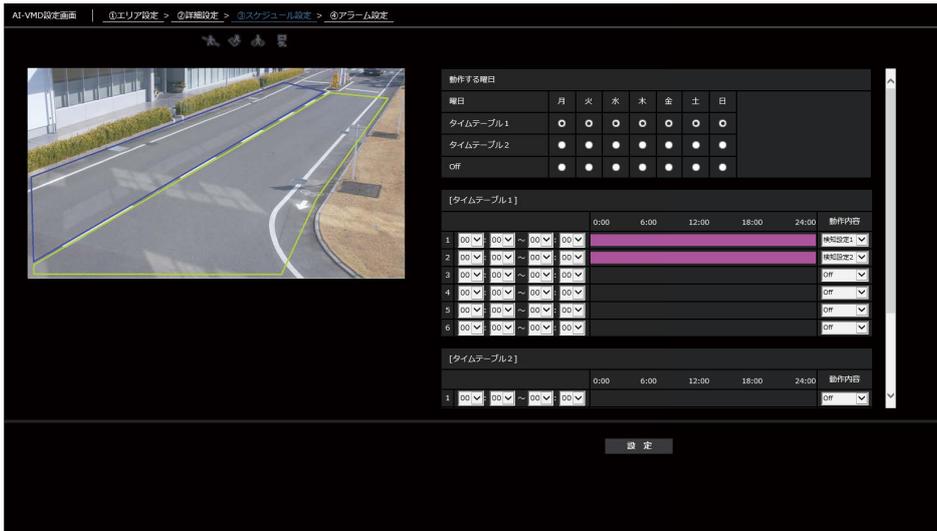
4. スケジュール設定

i-VMDのスケジュール動作を設定します。

スケジュールは「検知設定1」と「検知設定2」を重複して設定することができます。

画面上部の「③スケジュール設定」をクリックして、「スケジュール設定」画面を開きます。

■スケジュール設定



動作する曜日

i-VMDを動作させる曜日を設定します。

「タイムテーブル1」、「タイムテーブル2」について、それぞれ動作させたい曜日を選択します。「Off」の曜日を選択すると、選択した曜日は動作しません。

タイムテーブル1：月、火、水、木、金、土、日

タイムテーブル2：月、火、水、木、金、土、日

Off：月、火、水、木、金、土、日

初期設定：タイムテーブル1、月～日すべて選択

【タイムテーブル1】、【タイムテーブル2】

i-VMDを動作させる時間と動作内容を設定します。

動作させる時間は【タイムテーブル1】、【タイムテーブル2】について、それぞれ6つまで設定できます。

「動作する曜日」で選択した曜日に対して、動作させる時間が設定できます。

【時間】

設定可能な時間：00:00～23:59（24時間制）

初期設定：00:00～00:00

メモ

- 時間範囲の右側欄に00:00を設定した場合、時刻は24:00を意味します。

【動作内容】

i-VMDを動作させる検知設定を選択します。

Off：i-VMDを動作させません。

検知設定1：検知設定1の条件で動作させます。

検知設定2：検知設定2の条件で動作させます。

初期設定：・時間1：検知設定1

・時間2：検知設定2

・時間3～時間6：Off

必要な設定を行う（つづき）

5. アラーム設定

独自アラーム通知に関する基本的な設定方法や、他のアラーム設定方法については、カメラの取扱説明書を参照してください。

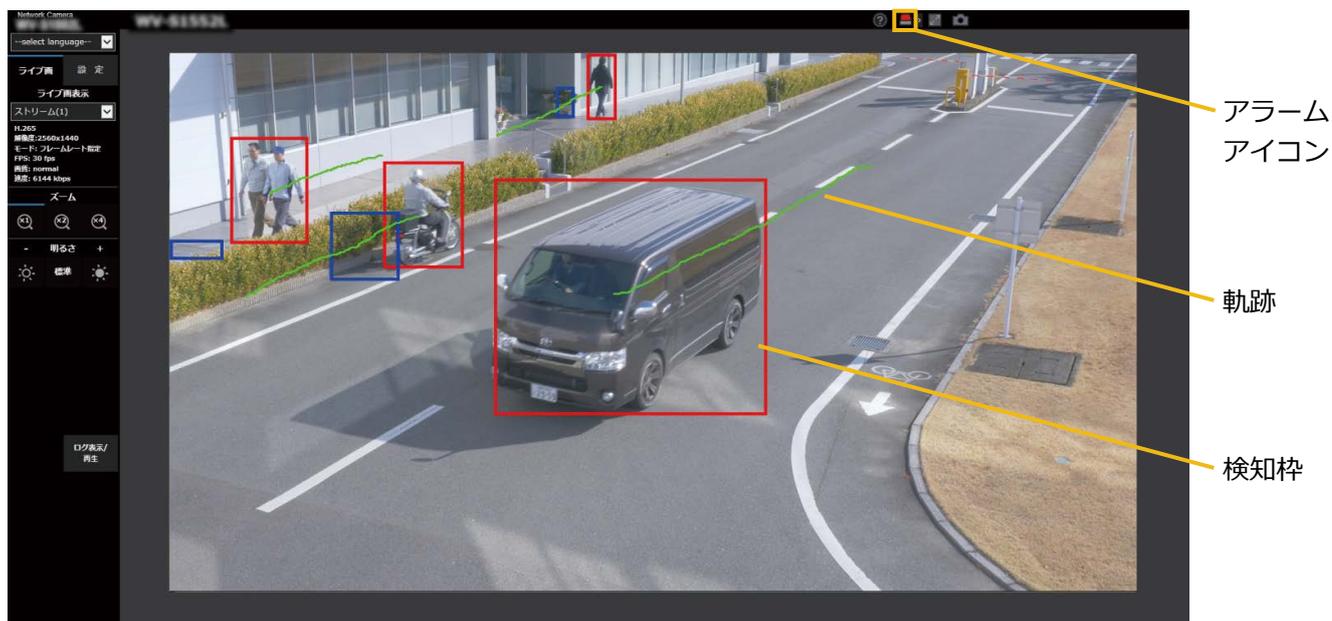
画面上部の「④アラーム設定」をクリックして、「アラーム設定」画面を開きます。

■アラーム設定



運用

必要な設定が終わったら、カメラのウェブブラウザを開き、映像表示させて運用開始します。



アラームアイコン

i-VMDで動体を検知すると、アラームアイコンが点灯します。

アイコンの右横の [>] ボタンをクリックすると、検知モードごとにアラーム状態が表示されます。



アラームアイコン



ラインクロス (CROSS LINE)



侵入検知 (INTRUDER)



滞留検知 (LOITERING)



方向検知 (DIRECTION)

アラーム発生時に、該当の検知モードのアイコンに赤枠が付きます。また、アイコン右側にアラーム内容が文字表示されます。

[<] ボタンをクリックすると、検知モードごとのアイコンが非表示になります。

アラーム発生中にアラームアイコンをクリックすると、すべてのアラームがリセットされます。

メモ

- 端子アラームでアラーム入力を受け付けた場合やコマンドアラームを受け付けた場合も、アラームアイコンが点灯します。

検知枠 (赤枠、青枠)

動体を検知したとき、この動体を青色の枠で表示します。検知した動体が検知エリアへ侵入してアラームが発生すると、この動体を赤色の枠で表示します。「i-VMD情報付加」設定により枠表示のOn/Offを切り換えることができます。

軌跡

アラーム枠 (赤枠) が動いた軌跡を緑色の線で表示します。直近の約3秒間の軌跡を表示します。

「i-VMD情報付加」の設定で、アラーム枠 (赤枠) を表示するよう設定しているときに表示します。

重要

- カメラ設定メニューの [基本] - [状態通知間隔] を「リアルタイム」に設定している場合でも、ネットワークの環境によってはアラーム発生通知が遅れることがあります。
- i-VMDの検知エリアを設定したあとにカメラ設定メニューの [映像/音声] - [撮像モード] または [基本] - [画像回転] を変更した場合、検知エリア、マスクエリアおよび奥行きがずれる、または初期化されることがあります。[撮像モード] または [画像回転] を変更した場合は、検知エリアおよびマスクエリア設定、奥行き設定を再度確認してください。
- i-VMDの検知エリアを設定したあとにズーム設定を変更すると、検知エリアおよびマスクエリアがずれることがあります。ズーム設定を変更した場合は、検知エリアおよびマスクエリア設定、奥行き設定を再度確認してください。

■使いかた・お手入れ・修理などは、まず、お買い求め先へご相談ください。

■その他ご不明な点は下記へご相談ください。

パナソニック システムお客様ご相談センター

電話 フリーダイヤル  **0120-878-410** 受付：9時～17時30分（土・日・祝祭日は受付のみ）
※携帯電話・PHSからもご利用になれます。

ホームページからのお問い合わせは <https://panasonic.biz/cns/cs/cntctus/>

ご使用の回線（IP電話やひかり電話など）によっては、回線の混雑時に数分で切れる場合があります。

【ご相談窓口におけるお客様の個人情報のお取り扱いについて】

パナソニック株式会社およびグループ関係会社は、お客様の個人情報をご相談対応や修理対応などに利用させていただき、ご相談内容は録音させていただきます。また、折り返し電話をさせていただくためのために発信番号を通知いただいております。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に開示・提供いたしません。個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきました窓口にご連絡ください。

パナソニックi-PROセンシングソリューションズ株式会社

〒812-8531 福岡県福岡市博多区美野島四丁目1番62号